



ROTARY CLUB OF OSAKA JONAN

WEEKLY BULLETIN

創 立 1969. 5. 30 会 長 小 林 正 啓
幹 事 金 山 信 利 会 報 委 員 長 元 氏 成 保

RI 2660地区
大阪城南ロータリークラブ

NO. 2528

2022-4-8

事務所 〒542-0012 大阪市中央区
谷町9丁目1番22号NK谷町ビル407号
TEL(06)6796-9898 FAX(06)6796-9899
https://osakajonan-rc.org/
E-mail:johnan25@crocus.ocn.ne.jp
例会場 シェラトン都ホテル大阪 上本町6-155
TEL (06)6773-1111
例会日 金曜日 12:30



Serve to Change Lives

奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-2022年度国際ロータリー会長 シェカール・メータ

本日の例会

4月8日(第2例会)

- 場所 シェラトン都ホテル大阪 3階 志摩の間
- 卓話 「鋼と金属加工」
鋼の事、それを切削する事
三宅善太郎会員
- 次年度理事会 11:30～
シェラトン都ホテル大阪 3階 ホワイエ
- 食膳 <フランス 肉料理>

次週のお知らせ

4月15日(第3例会)

- 場所 シェラトン都ホテル大阪 3階 志摩の間
- 卓話 「お仏壇の修復」
泉 浩一会員
- 食膳 <中国 御膳料理>

次々週のお知らせ

4月22日(第4例会)

- 場所 シェラトン都ホテル大阪 3階 志摩の間
- 卓話 「私の趣味」
田中浩之会員
- 「酒味の会」懇親会 18:00～20:00
KKRホテル大阪 14階 オリオンの間

先週の記事

4月1日(第1例会)

- 出席報告
出席会員37名(内免除会員7名)
会員総数46名(同上13名)
ゲスト 0名
ビジター 0名
計37名
ホームクラブ出席率92.50%
3月18日(第3例会)補正出席率100%(MU8名)



◆ 会長の時間 ◆

2022年3月26日と27日、神戸で開催された第34回全国ロータリーアクト研修会にクラブの会費でWEB参加しました。1日目の基調講演は、医師 大類隼人氏と金野幸大氏でした。大類氏は外科医・救命救急医で、ハイチ、バングラディッシュやブルキナファソでの医療支援活動や、医療人材

の育成に取り組んでいます。同氏は、ウクライナが世界の小麦消費の2割を支えていることから、この度の戦争が最貧国の飢餓を招くと心配していました。金野氏は篠山市の副市長から独立して地方の限界集落の再生に取り組んでおり、民家をリニューアルした宿泊施設「集落丸山」等で著名な方です。同氏は戦後、高度経済成長期の大都市集中型を否定し、地方分散型の成熟した社会の醸成が重要と説いていました。2日目の講演には三田ロータリークラブの安行秀文氏が登壇し、ウクライナ情勢の折、日本のロータリーアクトは直ちに行動すべきだと檄を飛ばしておられました。出席した全国のロータリーアクトにとっても刺激の多い2日間になったと思います。



◆ 幹事報告 ◆

- 2022年4月のロータリーレートは1ドル 122円です。
- 「第7回日台ロータリー親善会議福岡大会」のご案内が届きました。5月6日(金)にホテルニューオータニ博多で行われます。参加希望の会員は事務局までお申し出ください。
- IM第6組ロータリーデーのご案内が届きました。5月21日(土)四天王寺中学校・四天王寺高等学校「和光館」にて、大阪天王寺ロータリークラブがホストクラブとなり開催されます。
- 地区公共イメージ委員会より「SNS活用のための情報交換会」のご案内が届きました。SNSを活用している、あるいはこれから活用を考えているクラブの担当役員で、現状と課題を共有し、SNSを通じたロータリーの公共イメージ向上へ向けた連携を深めることを目的とします。5月18日(水)・23日(月)の15時から16時までZOOMミーティングで行われます。詳しい内容は事務局にお問い合わせください。
- 2022年 ロータリー国際大会(2022年6月4日(土)～8日(水):アメリカ・ヒューストン)第2660地区 大阪地区ナイトのご案内が届きました。6月4日18時前後から開始されます。参加希望の会員は4月25日(月)までに事務局にお知らせください。

◆ 委員会報告 ◆

親睦・出席委員会 山本英樹委員長
「酒味の会」を4月22日18時より、KKRホテル大阪にて開催予定です。

母子の健康月間

卓話

4月1日〈第1例会〉

「戦後77年 戦争と平和について想う事」

岡倉三郎会員



昨今、ロシアによるウクライナ侵攻のニュースが連日大きく報じられておりますが、戦争の悲惨な映像を見るたびに、想い重なるのが先の太平洋戦争の記憶であります。

私事になりますが、私は1936年の1月生まれで現在86歳となりました。

終戦当時は9歳で小学校4年生になっておりましたので、当時の事は今もかなり覚えております。

私には10歳上の兄がおりましたが、太平洋戦争の戦況も悪くなった1943年10月には学徒出陣令が発令され、理工学部、医学部を除く18歳以上の学生にも召集令状が出され、多くの若者がペンと銃を替えて戦地に送り出されました。兄は中国の武漢方面の戦線に送られ、二度と日本の地を踏むことは出来ませんでした。戦後届いた公報では南京郊外で戦病死と言う事だけで、遺品などは何一つ戻って来ませんでした。

1944年8月にはテニアン、グアムの玉砕の報があり、同年11月にはテニアンに建設された航空基地からの日本本土に対する空襲が始まり、翌年3月には東京・大阪などの主要都市に対する大空襲が始まり、私自身も2度空襲の現場に居合わせ怖い目にあいました。

戦後の教育方針は180度変わったようなもので子供心に戸惑いを感じました。ある先生からは我が国が歩むべき道は平和な観光立国、貿易立国を目指すしかないと言った話を聞きました。この時の貿易立国という言葉が後々の私の進路に暗示を与え、大学卒業後は輸出関連の仕事を選んでいました。仕事ではトロイの市長さんにも懇意になり、ゴルフに誘われ一緒にプレイをする等交流が進みました。ある時彼に「What's New?」と聞かれ、最近パラオに行って来たと言えたら、パラオ私も行っただ事があると言う事で、色々話をしているうちに同じパラオでも見聞きしたことと大きな違いがある事が判りました。私の見たパラオは青い海に緑の島が点々と浮かぶ美しく、戦前は日本が統治し南洋庁を置いた所でもあり、住民も年寄りには日本語が友好的な平和な所でありましたが、彼の体験は180度逆のものでした。話によると1944年、彼は19歳の時に海軍に志願しハワイの訓練所で軍事訓練を受けた後、補給船の乗組員として南太平洋の島々に軍の兵站補給の任に当たっていたのですが、たまたまパラオの攻防戦の直後にオレンジビーチ(これは米軍が戦後つけた名前、激戦の後、海の色が血で染まりオレンジ色だった事に由来していると聞きました)を訪れ生々しい戦争の後の地獄絵の様なシーンをを見て、それがいつまでもトラウマの様になっていたと言う事でした。2人の見たパラオはまさに天国と地獄で、戦争と平和の違いであります。

彼は進駐軍で佐世保には行った事があるがそれ以外は知らないという事で、市長を退任された後、日本に招待いたしました。その時、大阪を振り出しに宇奈月温泉、黒四ダム、立山、長野 善光寺・松本城等を周りながら、戦争と平和、世界の情勢など話し合う事が出来ました。そして日本を去る時に彼が「三郎、いろいろ有難う。お陰でやっと戦争のトラウマも消えたよ」と言ってくれました。

現在、大阪府遺族連合会の理事長を仰せつかっておりますが、戦没者の慰霊顕彰と共に、平和の大切さ、命の尊さを次世代を担う子供たちに末永く伝承して行く事が私たちの責務でもあるという事で小学生高学年、中学生を対象にDVDを使った平和学習事業にも力をいれており、東成区内の小中学校では校長会の申し送り事業として、6年生を対象に毎年実施して頂いております。



▲4月誕生日



▲米山功労者表彰



▲地区出向者委嘱状授与



▲にこここ箱報告

にこここ箱

4月1日(第1例会)

•久しぶりの卓話です。暫くの間お付き合いください。

岡倉会員

•他、お祝い 14件

(編集担当 細川・遠田)